

概要

東海市では、平成21年度に、バス交通に関する市民アンケートやバス利用実態調査を実施し、その結果から、バスの運行や利用に関する課題、改善方針を整理し、補助路線バスと循環バスのあり方をまとめました。

本年度は、これまでの調査結果のさらなる分析を行い、公共交通活性化の目標や基本方針を設定し、鉄道、バス、自転車、歩行者等、複数の交通モードの連携方策や、公共交通の利用促進策等についてとりまとめる「東海市地域公共交通総合連携計画」を策定します。

○地域公共交通の現況

東海市内には、名古屋駅と中部国際空港、知多半島南端を連絡する名鉄常滑線と名鉄河和線による鉄道網が形成されています。市内のバス路線は、循環バス「らんらんバス」と5路線のバスがあり、循環バスは、午前9時～午後5時まで運行し、市内の公共施設や駅・団地などを結んでいます。5路線ある路線バスのうち、市が補助する3路線は、午前6時台～午前8時台及び午後5時台～午後7時台で、通勤・通学者の足の確保を目的に運行しています。循環バスの利用者数は横ばい傾向にあり、また、補助路線バスは、年々利用者数が減少傾向しているため、市の行政負担が増加しています。

○地域公共交通の課題

- ・近年のバス利用者の減少傾向、横ばい傾向の改善
- ・利用者の少ないバス停、時間帯、休日への対応
- ・補助路線バスや循環バスなどへの高い行政負担の見直し
- ・運行に対する様々な市民要望への対応
- ・太田川駅周辺開発、バイパス整備など、関連計画との整合

○調査の主な内容

- ①公共交通の現状分析（既往調査結果の再分析）
- ②基本方針の分析・設定（公共交通活性化の基本的な考え方）
- ③目標の分析・設定（市の将来像を実現するための目標設定）
- ④連携・活性化方策の設定
- ⑤総合連携計画のとりまとめ

○地域公共交通総合連携計画の策定

地域公共交通の関係者からなる東海市地域公共交通会議において、本市の地域公共交通について多様な視点から総合的に分析し、市民や地元企業等による協力体制も含めた現実的な活性化・再生方策の策定を推進します。

